



先週  
の  
ドル  
円

Source: CQG, Inc. © 2006 All rights reserved worldwide.

先週  
の  
相場  
概況

16日

週末にサウジアラビアの石油精製施設が攻撃されたことを受け、週明けのアジア時間はリスク回避の動きが先行。東京市場が祝日で休場のなか、早朝取引でドル円は一時107.46円まで値を下げた。もっとも、107円台半ばに観測されていた本邦勢からの買いに下値を支えられ、その後は米長期金利の低下幅縮小などとともに108.17円まで切り返した。

17日

ドル円はアジア時間に108.37円まで上昇したが、国内輸出企業からの売りに上値を抑えられ、その後は108円台前半でのみ合いに終始。日米金融政策の発表を控えて様子見ムードが強かった。

18日

米連邦公開市場委員会(FOMC)はこの日、市場予想通りに0.25%の引き下げを決めたが、今後の利下げ見通しには不透明感が台頭。FOMC後は全般にドル高が進むなか、ドル円も一時108.48円と8月1日以来の高値をつけた。

19日

ドル円は本邦実需勢や米系短期勢からの売りに押されて弱含み。日銀が金融政策の現状維持を決めたことも売りを促し、一時107.79円まで値を下げた。黒田日銀総裁が「追加緩和について前回より前向き」との見方を示すと108.10円台まで買い戻されたものの、総じて戻りは限られた。

20日

ドル円はNY時間に入ると売りが優勢に。「米国を訪れている中国代表団が予定を早めて帰国する」との報道が伝わると、米中通商協議の先行き不透明感が強まったことでリスク回避の動きが進み、一時107.53円まで値を下げた。

総括

先週のドル円は上値が重かった。週明け16日はサウジアラビアの石油施設が攻撃されたことで107.46円まで下落したものの、その後は本邦勢などからの買いに支えられて下値を切り上げる展開に。18日のFOMCで今後の利下げ見通しについて不透明感が高まると、全般ドル買いが優勢となった影響から108.48円まで反発した。もっとも、上値では国内輸出企業からの売りが観測されたため、週後半は再び売りが優勢。日銀が金融政策の現状維持を決めたことが相場の重しとなったほか、米中通商協議の行方について懸念が高まったこともあり、週末20日には107.53円まで押し戻された。

## 先週の注目された経済指標結果

日付	時刻	曜	通貨	指標名	比	月	前回値	改定値	予想値	結果
18日	27:00	水	USD	FOMC政策金利	*	*	2-2.25%		1.75-2%	1.75-2%
18日	27:30	水	USD	FRB議長会見	*	*	*	*	*	*
19日	未定	木	JPY	日銀政策金利	*	*	-0.10%		-0.10%	-0.10%
19日	15:30	木	JPY	日銀総裁会見	*	*	*	*	*	*
19日	16:30	木	CHF	SNB政策金利	*	*	-0.75%		-0.75%	-0.75%
19日	20:00	木	GBP	BOE政策金利	*	*	0.75%		0.75%	0.75%
19日	未定	木	ZAR	SARB政策金利	*	*	6.50%		6.50%	6.50%

一言コメント・・・FOMCは市場予想通り0.25%の利下げを実施しましたが、今後の利下げに関しては明言しなかったため大きな方向感はありませんでした。日銀は金融政策の現状維持を決めました。英中銀やスイス中銀、南ア中銀も政策金利の据え置きを決めています。

## 先週の注目された要人発言

16日07:54 トランプ米大統領「戦略石油備蓄(SPR)の放出を認める」  
 19日03:00 FOMC声明「7月会合以降に得られた情報によると、労働市場は依然として堅調で、経済活動は緩やかな上昇を示している」「家計支出の伸びは今年初めから上向いたように見えるが、企業の設備投資と輸出は弱まっている」  
 19日03:30 トランプ米大統領「パウエルFRB議長とFRBは再び失敗した。ガッツもセンスもビジョンもない」  
 19日03:35 パウエルFRB議長「米経済は良い状態が継続」「利下げはリスクに対する保険」「インフレ率は依然として2%に上昇すると予想」「今後の政策方針は経済の進展次第」「金利は事前に設定されたものではない。確実に今日の決定」「経済が弱まれば、より大幅な利下げが必要になる可能性もある」  
 19日15:35 黒田日銀総裁「少なくとも2020年春頃まで現在の極めて低い長短金利を維持」「(FRBと比べて日銀は金融緩和の余地が少ないことについて)単純に名目金利を比較すると、FRBと比べると少ないかもしれない。しかしECBと比較すると金融緩和の余地がある」「金融緩和は前回会合より前向きになった」  
 19日16:32 SNB声明「SNBは必要に応じて為替市場で引き続き活動する」  
 20日02:10 ユンケル欧州委員長「我々はブレグジットを巡り合意できる」  
 20日16:25 コブニー・アイルランド外相「正直に言うと、現時点では合意は近くはない」  
 20日22:23 メルケル独首相「独は均衡予算を堅持する」  
 21日00:01 トランプ米大統領「中国との完全合意を模索している」「中国の米国産農産物購入は合意成立には不十分」

一言コメント・・・欧州委員長がブレグジット合意に楽観的な見方を示すとポンド買いが優勢となりましたが、アイルランド外相が否定的な見解を示すと一転ポンド売りが優勢となりました。英・EUサイドの離脱交渉責任者らの会談で目立った進展がなかったこともポンド売りを誘ったようです。

## 今週の経済指標

日付	時刻	曜	通貨	指標名	比	月	前回値	改定値	予想値
24日	17:00	火	DEM	IFO企業景況感指数	*	9月	94.3		94.5
24日	23:00	火	USD	消費者信頼感指数	*	9月	135.1		133.0
25日	11:00	水	NZD	RBNZ政策金利	*	*	1.00%		1.00%
25日	23:00	水	USD	新築住宅販売件数	年率換算	8月	63.5万件		65.6万件
26日	21:30	木	USD	GDP確定値	前期比年率	4-6月期	2.0%		2.0%
27日	21:30	金	USD	PCEコアデフレーター	前月比	8月	0.2%		0.2%
27日	21:30	金	USD	耐久財受注	前月比	8月	2.1%	2.0%	-1.2%

今週の注目は・・・日米株価の動向

# 週刊マーケットアナリシス 会員専用版レポート

会員サイトログイン後のページで  
ご確認ください

- 今週のドル円相場見通し
- 今週のGI24コメンテーターの一言
  - 荻野金男
  - 和田仁志
- 今週の注目経済指標
- 今週のテクニカルポイント
- 先週のコメント
  - 今井雅人
  - よろずのつぶやき

情報提供元：株式会社DZHフィナンシャルリサーチ

株式会社DZHフィナンシャルリサーチより提供している情報（以下「情報」といいます。）は、情報提供を目的とするものであり、特定通貨の売買や、投資判断ならびに外国為替証拠金取引その他金融商品の投資勧誘を目的としたものではありません。投資に関する最終決定はあくまでお客様ご自身の判断と責任において行ってください。また、予告なしに内容を変更することがありますのでご注意ください。商用目的で情報の内容を第三者へ提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容によって生じた如何なる損害についても、（株）DZHフィナンシャルリサーチは一切の責任を負いません。